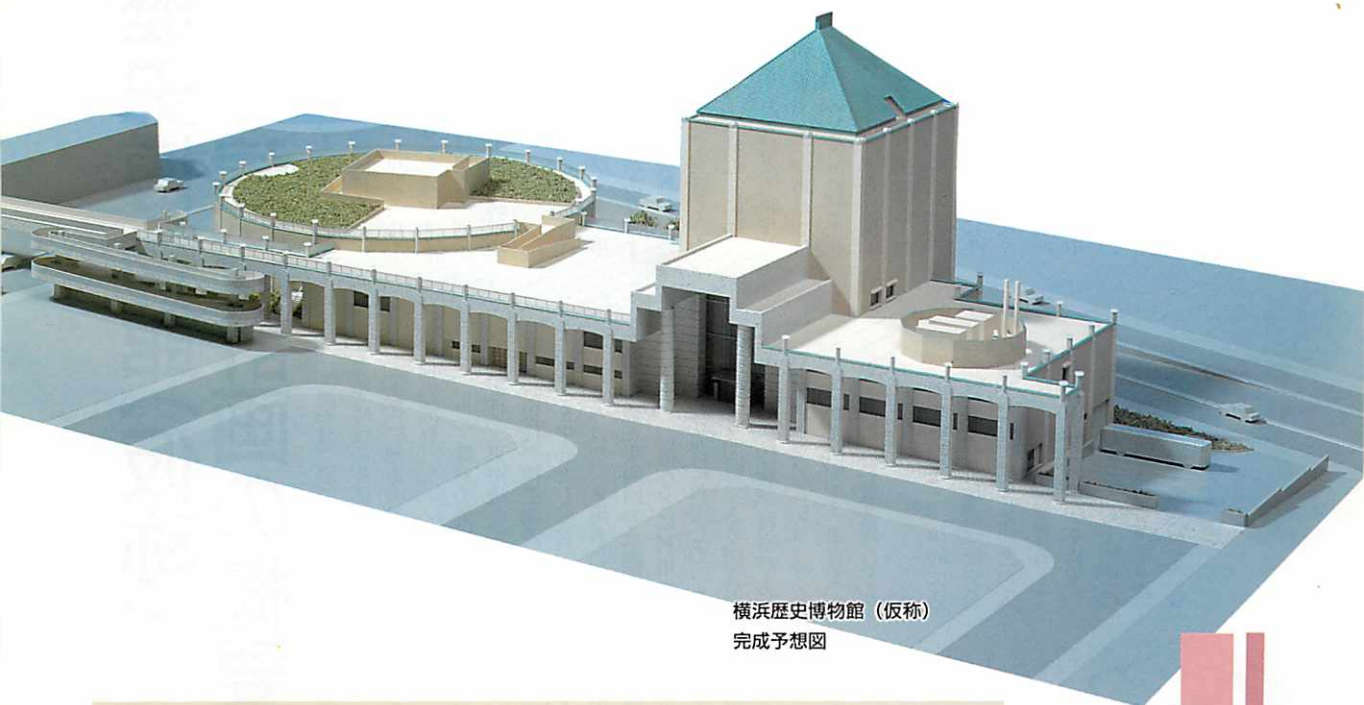


横浜歴史博物館(仮称)

平成4年11月

第1号

開館準備ニュース



横浜歴史博物館(仮称)
完成予想図

発刊にあたって

教育長 足立 光生

横浜市では、横浜にかかわりのある歴史資料を保存・公開する横浜歴史博物館(仮称)を平成六年度の開館に向け建設しています。

横浜歴史博物館では、原始・古代から開港期頃までの横浜の歴史を楽しみながら、わかりやすく学んでいただくため、映像を駆使した歴史旅行ゾーンや手にふれて体験できるコーナーなど新しい手法を取り入れるほか、隣接する国指定史跡「大塚・歳勝土遺跡」を博物館の野外施設(歴史公園)として整備し、博物館との一体的活用を図るなど楽しめる博物館としています。

現在、建物の建設や野外施設の整備のほか、資料の収集や模型の制作など博物館の開館準備を行っています。本年十月一日には、財団法人横浜市ふるさと歴史財団を設立し、準備業務に万全を期しています。同財団は、三殿台考古館・八聖殿郷土資料館・獅子ヶ谷横溝屋敷などの文化財関連施設の管理運営を行うほか、歴史博物館(完成後)の管理運営、歴史・文化財の普及啓発、歴史・文化財の調査研究など歴史・文化財に関する幅広い事業を行います。そのため、埋蔵文化財の発掘・調査研究を行う横浜市埋蔵文化財センターを財団組織に組み入れました。

この「横浜歴史博物館(仮称)開館準備ニュース」は、市民の皆様が博物館への関心と親しみをもつていただくため、博物館開館までの進行状況をお知らせしていくものです。今後とも、博物館への皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

建設計画の概要

〔原始Ⅱ〕濠で囲まれたムラ「大塚遺跡」にみる弥生時代の生活。

〔古代〕地方の役所である都筑郡衙をめぐる人物の流れ。

〔中世〕鎌倉の外港であつた六浦湊の繁栄。

〔近世〕東海道と宿場の繁栄。

〔近現代〕横浜開港と、その後の街と郊外の生活。

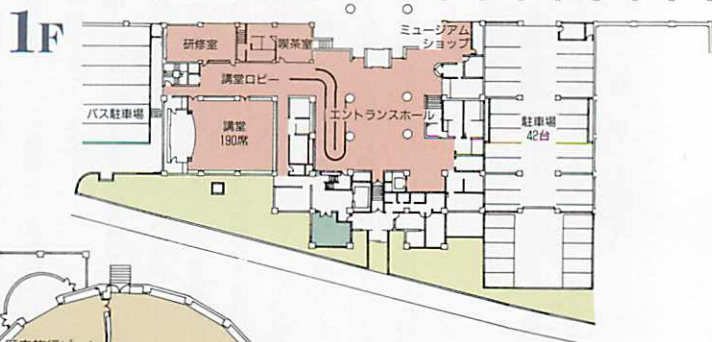
などを中心として展示構成しています。

このほか、来館者の方に広くご利用していただくため、年四回の企画展示を行う企画展示室、講演会の開催などに利用する講堂、研修や研究のための生涯学習に利用していただく研修室、歴史関係の図書を閲覧できる図書室、体験学習や研究活動のための体験学習室があります。さらに喫茶室・ミュージアムショップも設けます。

ほかに研究室・事務室・情報処理室、考古・歴史・民俗の各収蔵庫などがあります。

歴史博物館と一体的に活

用される野外施設（歴史公園）では、国指定史跡の大塚・藏勝土遺跡を保存して当時のムラの様子を再現します。緑を残した公園内には、江戸時代の古民家を復元し、野外での体験学習などで活用します。



- 所在地/横浜市港北区港北ニュータウン・第一地区タウンセンター内
- 敷地面積/7,278.527㎡
- 規模/地上6階地下1階
- 構造/鉄骨鉄筋コンクリート造
- 延べ床面積/9,269㎡
- 高さ/30.95m

■開館予定
平成6年度

●インタビュー● つるつるやう横浜

横浜の昔を知るのに苦労しました

山崎 洋子 (小説家)

デビュー作の『花園の迷宮』は昭和初期の横浜を描いたもので、その後も横浜を舞台にした作品を大正、明治と書いています。最近発表した『長崎人魚伝説』は横浜の話ではありませんが江戸時代の話です。割と時代小説を書くのは好きです。現代物より冒険小説っぽくでき、小説として遊べる場所がありますから。そのかわり時代物はその当時について勉強しなければなりません。時代背景、舞台となる町の様子や方言、食べ物や着る物も。小説はうそを書いていいんですけど、そういう細かいことを頭にたたき込んでおかないと、うそがうそとして迫力をもたないんです。

ところが横浜の昔の話を書いたときは、資料が意外と少なく苦労しました。空襲や関東大震災があつて建物も資料も焼けたりにして、『花園の迷宮』は南区の一角にあつた遊廓が舞台なんです。とにかく資料がない。ちょうど遊廓から旅館に転業なさつたおうちがあつたので、そこに飛び込みで入つてお願いして、その方の親や祖父の代のお話を伺つて参考にしました。そこに昔の家の写真があつたんです。たつた一枚ですけれど、遊廓の雰囲気を知るのに役に立ちましたね。

それから横浜は、町や通りの名前がよく変わつたり、運河や埋め立て地が次々にできて、町の様子の変化がすごく激しい。ですから年代別にあるだけの地図を手に入れて、書こうと思う年にできるだけ近いものを見ています。

生まれは京都府です。横浜には通算で十五、六年住んでいます。ここはいまだに移り変わつていくという印象がありますね。横浜はもともと、人口二百人ぐらいの村が開港で町になって、外国や日本各地から人がどんどん流れ込んできたので、地元の人にはほんといない。ということは変な愛着とかがない。だから平気で自分の住むところを変えられるでしょうね。その点、私が生まれ育つた京都府の海辺の町とは全然違う。元から横浜に住む人は変わるのを残念に思われるでしょう。



れど、私たちからみれば、これが横浜らしさだからいいのではないか、という気がします。

開港以前の横浜はほとんど知られていない。そこを歴史博物館が掘り起こすのは大変いいことですね。私の住む緑区や隣の港北区で古墳などがよくみつかるようですけれど、横浜というところの方々が注目されてこちらは忘れられがち。港北区に博物館ができれば、こども横浜の一部だという認識が広まるでしょうから、そういう意味でも期待がもてます。

●史跡紹介●

大塚・歳勝土遺跡

大塚・歳勝土遺跡は、博物館建設地の東に隣接した小高い丘の上にあります。ここでは昭和四十七年から四十八年にわたる発掘調査が行われ、今から約二千年前にあたる弥生時代中期の環濠集落（外敵を防ぐための大きな溝を廻らしたムラの跡）と方形周溝墓群（周りに四角く溝を掘ったお墓）が発見されました。

このように弥生時代のムラとお墓が完全な形で見つかることは、全国的にも珍しいことです。そこで当時のムラの姿を伝える貴重な遺跡として、港北ニュータウン整備でおしくも破壊されてしまった部分を除き、昭和六十一年一月に国の史跡に指定され保存されることになりました。

大塚・歳勝土遺跡は、平成六年度の博物館の開館にあわせて、広さ約六・六ヘクタールの歴史公園の一部として整備される予定です。公園内には、博物館とあわせて楽しく歴史の勉強ができるように、弥生時代のムラやお墓を当時の姿のままに復元します。



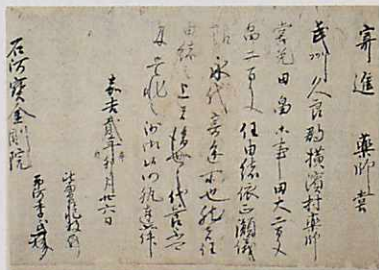
大塚・歳勝土遺跡の環濠集落

「シラム」

史料にみえる
初めての「横浜」

「横浜」という地名が全国的に知られるようになるのが、開港以降の事であることは、よく知られています。しかし、「横浜」という地名の起源や、いつごろから文献に現われるようになるかについては、案外知られていない事かも知れません。

「横浜」の起源は、半島状の砂州が横に長くのびた地形にちなむとも、「浜の横」つまり浜のそばにある村という意味から出たともいわれていますが、確かではありません。では文献ではいつごろからみえるのでしょうか。右の写真は、南区の宝生寺に伝わる古文書です。嘉吉二年（四四）四月二十八日に石河宝金剛院（現在の宝生寺）の薬師堂へ、横浜村にある田畠を寄進する内容です。これが「横浜村」という地名が最初に現われる古文書なのです。つまり、この史料によって室町時代の中ごろには、横浜村が存在していたことを知ることができるのです。



薬師堂免田畠等寄進状

開館へのあゆみ(1)

昭和56年12月	よこはま21世紀プランで、港北ニュータウン地域からの出土した考古資料等を後世に継承するため「考古資料館」の建設構想が提示される
昭和60年5月	よこはま21世紀プラン第二次実施計画において、「考古資料館」構想が、横浜の歴史資料を保存公開するための「歴史博物館」構想へと、より充実した施設として位置付けられた
昭和61年1月31日	大塚・歳勝土遺跡が国の史跡に指定される
昭和62年度	横浜歴史博物館（仮称）建設基本計画策定委員会により、横浜歴史博物館（仮称）建設基本計画が策定される
平成元年度	歴史博物館建築・展示基本設計
平成2年度	野外施設整備基本計画
平成3年度	歴史博物館建築・展示実施設計
平成4年10月	歴史博物館建築着工・展示制作着手 野外施設整備基本設計 財団法人横浜市ふるさと歴史財団発足

インフォメーション

横浜市ふるさと歴史財団発足記念

「収蔵資料展」(仮称)の予告

横浜歴史博物館（仮称）の母体である横浜市ふるさと歴史財団が、平成四年十月に発足したのを記念するとともに、歴史博物館のPRを兼ねて、平成五年二月に「収蔵資料展」(仮称)を行います。主な展示品は、近年市域で出土した土器・石器や、歴史博物館の開館に向けて新たに収集した美術・工芸品などです。ご期待ください。

横浜市ふるさと歴史財団発足

平成四年十月一日、横浜市ふるさと歴史財団が発足し、第一回理事会を十月十九日に開催いたしました。同財団は、幅広い事業展開を行うため横浜市埋蔵文化財センターを組み合わせ、主として原始・古代から開港期頃までの横浜の歴史や文化財の調査研究、及びそれにもとづいた展示や各種の講座・講演会などの普及啓発事業を行っていくもので、現在建設中の横浜歴史博物館（仮称）をはじめ、三殿台考古館・八聖殿郷土資料館・獅子ヶ谷横溝屋敷といった文化財関連施設の管理運営を行います。

●編集後記

去る十月一日に横浜市ふるさと歴史財団が発足し、横浜歴史博物館（仮称）開館の準備作業も追いつきの段階となってきました。常設展示の制作や開館特別展の企画など、平成六年度の開館までの限られた時間の中で、いろいろなことを進めていくことになります。開館準備ニュースではこうした進行状況について、随時お知らせしていきたいと思っています。なお、次号からは財団で発行いたしますので、温かく見守って下さるようお願いいたします。

横浜歴史博物館（仮称）開館準備ニュース

第一号

●発行／平成四年十一月三十日

●編集 横浜市教育委員会社会教育部文化財課

〒二三一 横浜市中区港町一―

電話〇四五(六七)二三八四・三三七九

●印刷

横浜市広報印刷物登録第〇四三〇一九号

類別・分類 C―ME一四〇